

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例1】

1 目的

震災等により被災地においてガソリン等の燃料が不足した場合に災害復興支援車両等への燃料補給を行うことを目的とし、危険物施設以外の場所での一時的な貯蔵やドラム缶から手動ポンプを用いて金属製携行缶への詰め替えを行い、仮設の燃料供給拠点として利用するために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

熊本市〇〇区〇〇町〇〇番▲◇号 〇〇工場東側空地（コンクリート舗装）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約360平方メートル（15メートル×24メートル）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第4類第1石油類（ガソリン）3,000リットル

6 指定数量の倍数

1.5倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 200リットルの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。
- (2) 保有空地を6メートル確保する。
- (3) 貯蔵場所と取扱い場所に6メートルの離隔距離をとる。
- (4) 高温になることを避けるため、必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設ける。また、取扱場所において危険物が炎天下長時間さらされないようにする。
- (5) 第5種消火設備 10型ABC粉末消火器 3本を設置する。
- (6) 標識、掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) ドラム本体、給油に使用するドラムポンプ等のアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。
- (3) 危険物を取扱う者は、静電安全靴を着用する。

9 管理状況

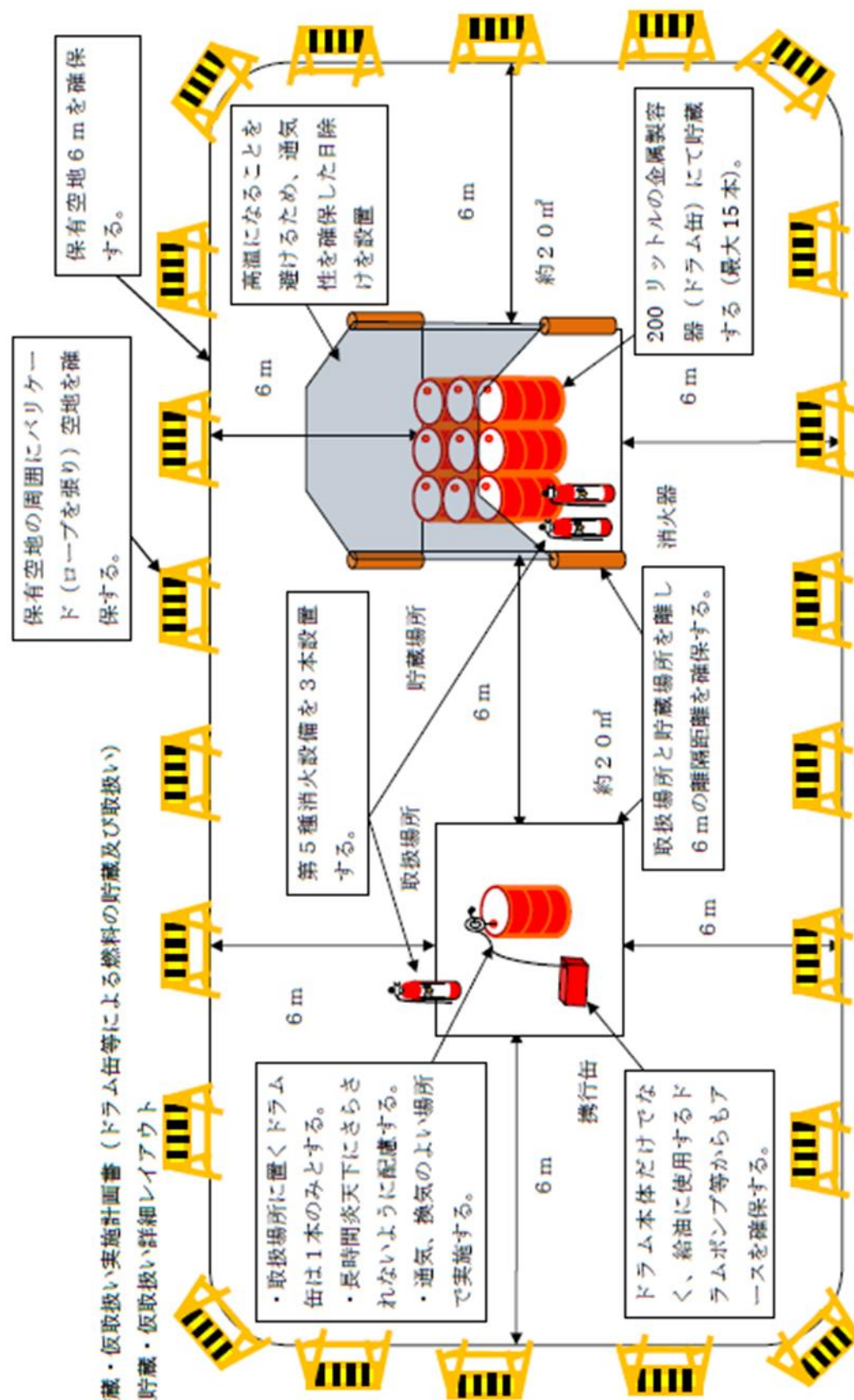
- (1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要な事項

金属製携行缶による給油は、この場所以外では行わない。

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（ドラム缶等による燃料の貯蔵及び取扱い）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト



2 標識・掲示板(例)※ 標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う。



- ・大きさ、縦30cm以上、幅60cm以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例 2】

1 目的

震災等により被災地において災害復興のための重機への燃料補給及びドラム缶への注油を行うために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

熊本市〇〇区〇〇町〇〇番▲◇号 ●▽工場西側空地

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約 2, 0 0 0 平方メートル

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第 4 類第 2 石油類 軽油 1 日最大 2 0, 0 0 0 リットル

6 指定数量の倍数

2 0 倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 移動タンク貯蔵所から直接重機への給油及びドラム缶への詰替えを行う（詰め替えたドラム缶は別途確保する貯蔵場所へ速やかに移動させる）。
- (2) 保有空地を 6 メートル確保する。
- (3) 高温になることをさけるため、必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵所に設ける。
- (4) 第 5 種消火設備 1 0 型 A B C 粉末消火設備 3 本を設置する。
- (5) 標識、掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。
「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) ドラム缶本体のアースを確保する。
- (2) 吸着マット等危険物の流出等の応急資機材を準備する。
- (3) 危険物の取扱いは原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

9 管理状況

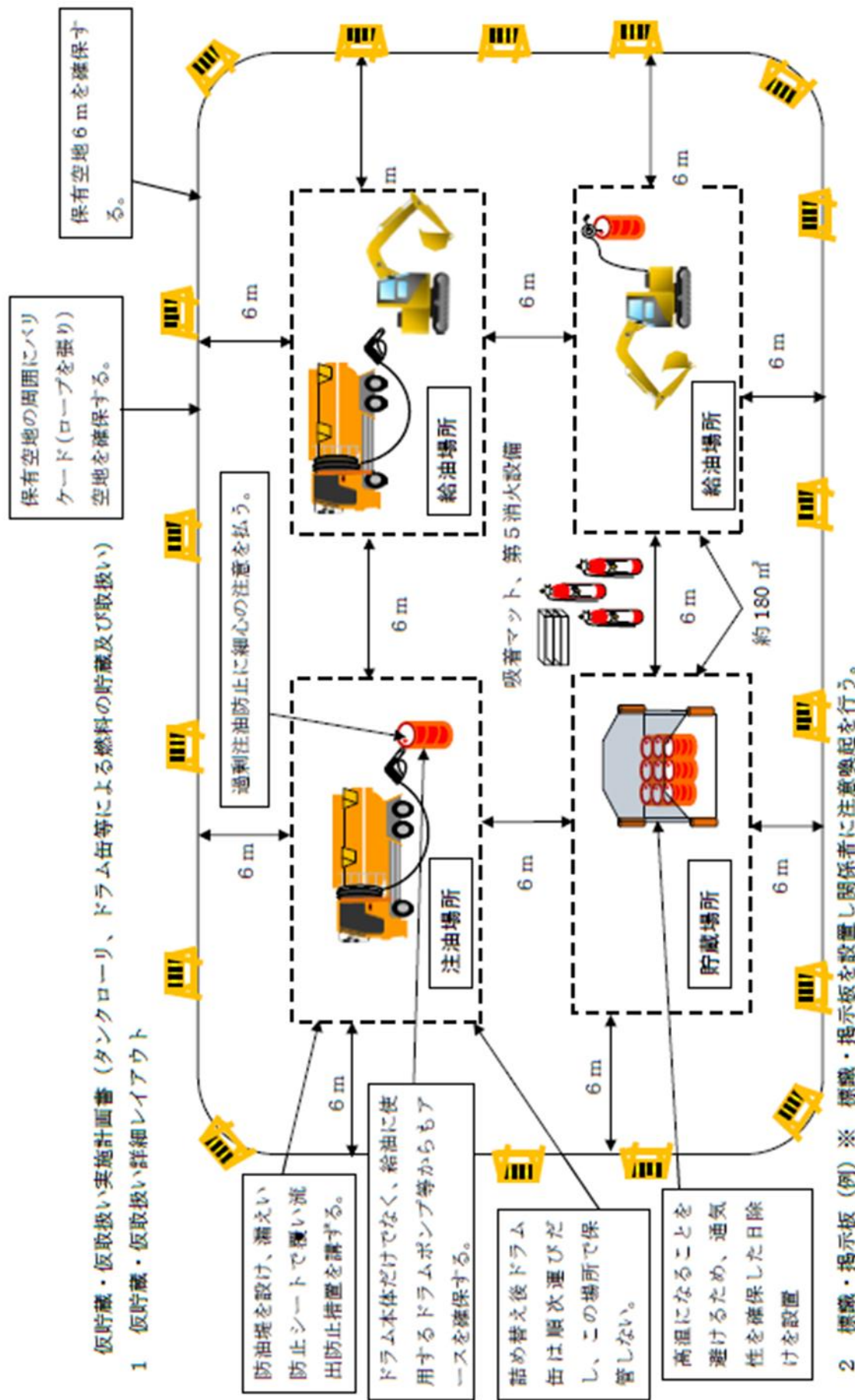
- (1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要な事項

移動タンク貯蔵所への注油は別の場所で行う。

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（タンクローリ、ドラム缶等による燃料の貯蔵及び取扱い）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト



2 標識・掲示板(例)※標識・掲示板を設置し関係者に行う。

禁嚴氣火

危険物貯蔵・取扱場所
危険物の類・品名・数量（倍数）
・第4類 第2石油類 軽油
20,000リットル（20倍）
管理表 ○○△△

- ・大きさ、縦 30 cm 以上、幅 60 cm 以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色

地域防災拠点等でのドラム缶等による灯油、軽油の貯蔵・取扱い

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例３】

1 目的

震災等により地域防災拠点等において非常用発電機及び暖房用燃料として、灯油、軽油をドラム缶で貯蔵し、金属製携行缶、灯油用ポリエチレン缶（以下「携行缶等」という。）に小分けするために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

熊本市〇〇区〇〇町〇〇番▲◇号 〇〇小学校運動場（〇〇地域防災拠点）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

合計 約 1 7 6 平方メートル（1 6 メートル× 1 1 メートル）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第 4 類第 2 石油類（灯油・軽油） 2, 0 0 0 リットル

6 指定数量の倍数

2 倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 2 0 0 リットルの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。
- (2) 保有空地を 3 メートル確保する。
- (3) 貯蔵場所と携行缶等に小分けする場所に 3 メートルの離隔をとる。
- (4) 高温になることを避けるため、必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設ける。
- (5) 第 5 種消火設備 1 0 型 A B C 粉末消火器 2 本を設置する。
- (6) 標識、掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) ドラム本体、手動ポンプ等のアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

9 管理状況

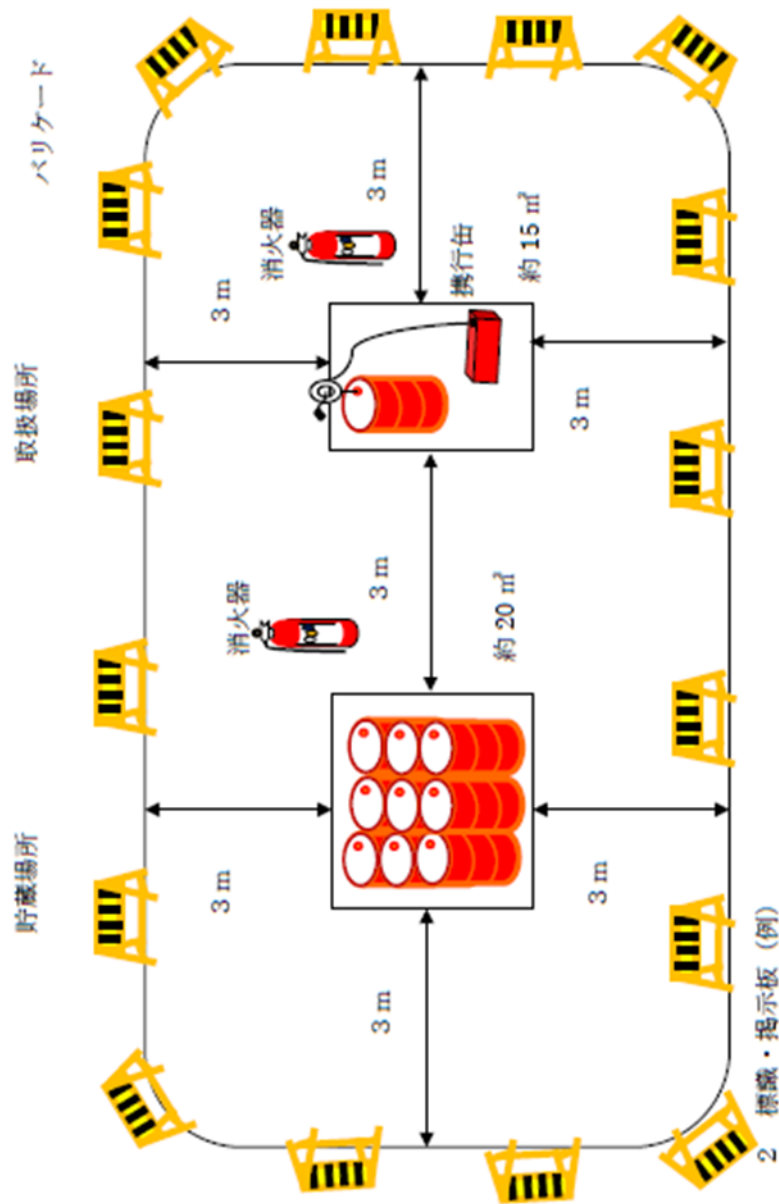
- (1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要な事項

携行缶等への小分けは、この場所以外では行わない。

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（地域防災拠点等のドラム缶による燃料の貯蔵、取扱い）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト



恒壽堂

- ① 保有空地を3メートル確保
- ② 保有空地の周囲にバリケード等を立て空地を確保する。
- ③ ドラム缶、給油ポンプにアースを取る。
- ④ ABC粉末消火器（10型）を2本設置する。
- ⑤ 危険物は、貯蔵場所に金属製容器（ドラム缶）にて貯蔵する。（最大10本）
- ⑥ 取扱い場所に置くドラム缶は1本とする。
- ⑦ 貯蔵場所のドラム缶が高温となることを避けるため、必要に応じ通気性を確保した日除けを設ける。
- ⑧ 危険物の取扱いは通風・換気の良い場所で行う。
- ⑨ 標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う。

火氣嚴禁

危険物取扱い・保管取扱所
危険物の類・品名・数量（倍數）
・第4類 第2石油類 軽油・灯油
2,000リットル（2倍）
監視者 ○○ △△

- ・大きさ、縦 30 センチメートル以上、幅 60 センチメートル以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色

危険物を収納する設備等からの危険物の抜取り

仮貯蔵・仮取扱い実施計画【例４】

1 目的

震災等により被災した変圧器等を修繕、点検するために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

熊本市〇〇区〇〇町〇〇番▲◇号 ●▽工場南側空地

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約 1 2 0 平方メートル（1 2 メートル×1 0 メートル）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第4類第3石油類 絶縁油 1 0, 0 0 0 リットル

6 指定数量の倍数

5 倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 変圧器の修繕、点検のため、変圧器内部の絶縁油を一旦抜取り、仮設タンク等で貯蔵し、内部修繕・点検が終了後に変圧器内部に再度注油する。
- (2) 保有空地を 3 メートル確保する。
- (3) 第 5 種消火設備 10 型 ABC 粉末消火器 3 本を設置する。
- (6) 標識、掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。
「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) 変圧器等、ポンプ、仮設タンクのアースを確保する。
- (2) 仮設の防油堤を設置し、漏えい防止シートの敷設等の流出防止対策を講ずるとともに、配管の接合部からの流出防止対策としてオイルパンを設置する。
- (3) 1 カ所の取扱い場所で同時に複数の設備からの抜き出しは行わない。
- (4) 危険物の取扱いは原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

9 管理状況

- (1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

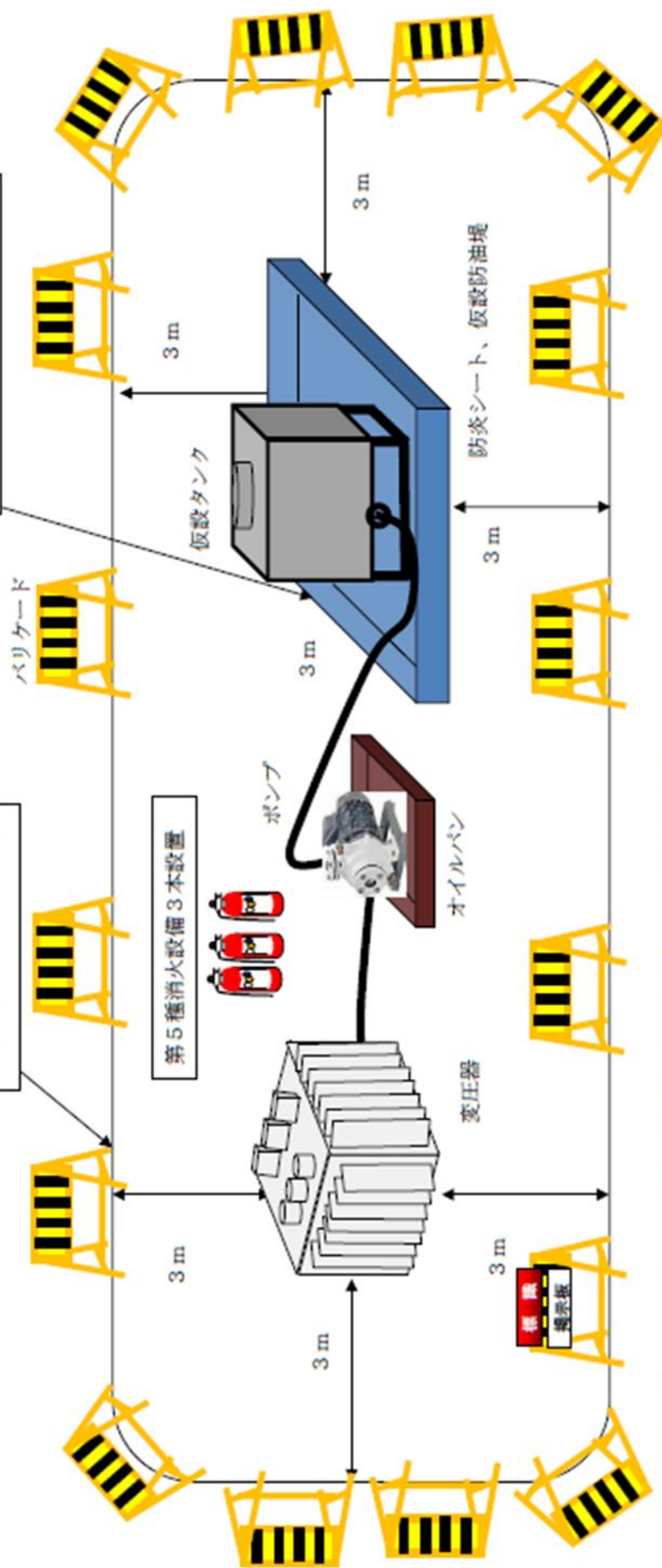
10 その他必要な事項

危険物の抜き出し等を行った変圧器の数及び危険物の数量を記録し、事後速やかに報告する。

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（危険物を収納する設備等から危険物の抜取りの安全対策の例）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト

保有空地3mを確保する。



2 標識・掲示板(例) ※ 標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う。

火氣嚴禁

危險物假貯藏・假取扱所

危険物の類・品名・数量(倍数)

• 第4類 第3石油類 (潤滑油)

10,000リットル(5倍)

管理系

- ・大きさ、縦 30 cm 以上、幅 60 cm 以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色